

## 公益活動報告書（市民活動実績報告書）（令和5年度分）

（宛先） 岡崎市長

令和 6年 4月 28日

団体名 共育サロン・まなびんパーク

代表者 尾竹 花保里 構成員 16 人 （※令和6年4月1日時点の構成員数）

団体の目的：団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

本会は、子育て・人育てに関する活動を行うことにより、岡崎市内の養育者が抱えがちな問題に地域コミュニティ全体で自分ごととして取り組み、「みんなであまあるく子育て」することを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか（公益活動に限る）。

活動日 又は期間	場 所	受益者※		活 動 内 容	効 果	分類 ※
		会員以外	会員			
7、9、 11、2月に 1回ずつ	各地域交流 センター	40人	8人	『転入ママのおしゃべりサロン』 岡崎が地元ではない「転入ママ」 ならではの悩みや知りたいことを共有 しながら、交流。情報を上手く収集 できなかつたり、「孤育て」に陥り やすい転入ママの新しい拠り所になる 場を形成した。	特に小さな子を持つ 養育者が、コミュニ ティに参加するきつ かけ、場を提供し た。	③
6、10、 1月に1回 ずつ	中町にある 空き家 (個人宅)	42人	6人	『ベビー用品譲渡会』 団体の活動へ理解を寄せてくださる 支援者より空き家を借り、ベビー用 品の譲渡を通じて、助け合いのコ ミュニティの形成に寄与した。	特に小さな子を持つ 養育者が、コミュニ ティに参加するきつ かけ、場を提供し た。	③
4、5、6、 7、9、 10、11、 1、2、3 月に1回	各地域交流 センター	156人	20人	『はじめてのわらべうた ベビーマッサージ』 赤ちゃんとのマッサージを通して、 親子間のコミュニケーションについ て学び、子育てについての話し合い の時間も持ち、養育者コミュニティ を広げた。	特に小さな子を持つ 養育者が、コミュニ ティに参加するきつ かけ、場を提供し た。	③
4、5、 6、11、 11、2月に 1回ずつ	図書館交流 プラザ・リ ブラ	72人	12人	『おやこdeのんびり食育サロン』 習いごとの中でも関心度の高い右脳 教育を通して、幼児教育について学 び、子育てについての話し合いの時 間も持ち、養育者コミュニティを広 げた。	入園前の子を持つ養 育者が、コミュニ ティに参加するきつ かけ、場を提供し た。	③
6、10、1 月に1回ず つ	各地域交流 センター	24人	6人	『はじめての英語あそびサロン』 英語あそびを通して、親子間のコ ミュニケーションについて学び、子 育てについての話し合いの時間も持 ち、養育者コミュニティを広げた。	入園前の子を持つ養 育者が、コミュニ ティに参加するきつ かけ、場を提供し た。	③

4、7、9月 に1回ずつ	各地域交流 センター	28人	6人	『はじめてのバランスボールサロン』 「ママ講師サポート事業」の一環として実施。講師として自立する手助けをすることで、養育者の社会進出の機会を創出した。	『ママ講師』のイベントに参加することで、養育者の社会参加の可能性を広げる場をつくった。	③
11月18日	図書館交流 プラザ・ りぶら	50人 程度	2人	『食育クイズでまなびん!』 りぶらで開催された「おかぎきこそだて会議」へ出展。普段サロンに参加しない方にも広く当団体を知ってもらうきっかけづくりとした。	団体そのものを広く知ってもらうことで、活動の担い手を増やす場をつくった。	③
10月18日	地域交流セ ンター六ツ 美分館・悠 紀の里	67人	2人	『はいはいレース』 「ゆきファミリーパーク」という地域交流センターでのイベントへ出展。普段サロンに参加しない方にも広く当団体を知ってもらうきっかけづくりとした。	団体そのものを広く知ってもらうことで、活動の担い手を増やす場をつくった。	②
<input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため（新型コロナウイルスの影響により）公益活動が全く実施できなかった。（□にレ点を記入してください）						

※受益者団体が提供したサービスを受けた人

※分類①=人を助ける活動 ②=活動の担い手を育てる活動 ③=人々を啓発し、団体の目的を広める活動

☆活動についてチラシ、報告・記録などがありましたらあわせてご提出をお願いします。

■2 前項1に基づき、活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください（数字に○をつけてください）

高い ← 5 (4) 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください

「ママ講師サポート事業」が5期目を迎えたが、2名でスタートしたものの、1名自己都合で継続不可能となり、1名だけの事業となったため、全体の集客は昨年より大幅に減ってしまった。サポート事業を必要としている方はいるだろうとは思っているが、なかなか巡り会えなかったり、タイミングが悪かったりで、団体のスケジュール感と合わない部分は再考すべきだろうと話合っているところだ。

しかしながら、コロナ禍の影響をほぼ気にせずイベント運営ができたことはとても良かったと思う。

徐々に子ども向けイベントも増え、複数団体でイベントをした「おかぎきこそだて会議」や「ゆきファミリーパーク」はかなりの来場者を迎えることができ、団体を知ってもらう良い機会になった。

イベントに行き慣れた層が、ターゲット層から外れ、今は生まれた時から、慎重に育てている養育者が増えているので、次年度はそれに合わせた活動をしていきたい。